

50603

教科書文庫

6
720
45-1949
20003 01633



3759
M014
資料室

著作教科書

福島県



375.9

No. 14

一	校友會雜誌	送る	次
二	行書	を習う	
三	朝	のよるこび	
四	友だちへ	の手紙	
五	はがきの	いろく	
	参考書	をから	
	年	賀	
	うわが	き	
六	書き	ぞめ	
七	和漢朗詠	集	
八	集字聖教	序	
九	感贈	答の	ことば
	謝状		
			二
			八四
			三
			六
			九
			十
			五
			五
			五
			五
			十

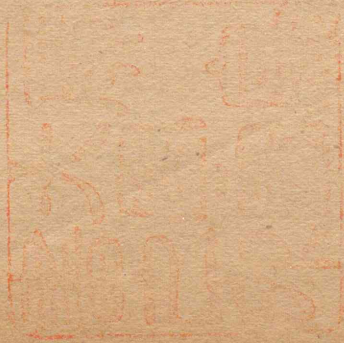
資料室

心

二四八八三十三九千五五五五五五五

寶料室

羽字二



文部省



一、校友会雑誌を送る

校友会雑誌を卒業生や学校関係者に送るために、みんなが封筒の表を書いた。多くの文字を速く書くには、どうしても行書の書きかたにたよっておく必要があると、よく感じた。

一、楷書と行書とのちがいを字形や筆づかいや用いる場あいなどについて考えてみよう。

二、友だちの住所や姓名を行書で書いてみよう。

秋

長

北

秋田福島東京

長野高知大分

北海道和歌山

係者に
目いた。
行書の
とよ
筆が
みよう。
書に

二行書也習

人	住他位便
山	安定室富
广	店府及廣
文	改政教數
木	村林案權
火	泉無然熱

口	古右右和
尸	向居屋展
才	折技投持
日	明時昭暑
冫	決治法海
田	男町界番

土

生

言

石和
包展
投持
如暑
公海
介番

土地遠近往復
生產機械賣買
言論思想性情

目	直	相	省	真
禾	科	秒	稅	移
糸	紙	級	終	縣
衣	表	補	製	複
言	記	設	論	議
之	返	通	達	選

示	礼	禁	栗	祖
竹	第	等	答	筭
止	花	岸	落	葉
見	規	視	觀	覺
車	轉	輕	輪	輸
卩	郡	都	陸	陽

親
社
信

示祖
在岸
浩葉
觀寬
柳翰
陸陽

親子夫婦家庭
社會平等博愛
信用誠實勤勉

三、朝のよるゑ

文集にいらる自作の詩を筆で書いてみた。べいとはちがったおもしろみがある。漢字とかなのものだった文は、行書で書いたほうが、あいがよく、能率もあがる。かゞ新聞も文藝欄などは行書で書いてみよう。

春
み
の
ま

朝のよるひび

聖村 明

書、定と

みちの聖に

ぼしあけはせられた

ま

いこみ
ある。
書て
能率
どは

+

かたは文章はたゞ二三字づつは書、
よ。なほうが自然に美し、ある。

わたり あたり たり へ

たはり たり たり たり

より たり たり たり

たり たり たり たり

清の室氣と
 か、やく目光が
 大木がに流し子
 くやにあぶら
 うちゅうが
 朝のちげん、まがら

清の室氣と
 か、やく目光が
 大木がに流し子
 くやにあぶら
 うちゅうが
 朝のちげん、まがら

四 友だちへの手紙

轉校していった友だちへの手紙を書いた。
このころ名字に興味があいて、なんでも
筆で書いてみた。気がする。返事を筆
で書いてみる。いかに思う。

おえ

手入

うげ

一十

三三

お元氣ですか、今、学校園の
 手不なるといふ事の中が
 らはたがたんびかしてゐる出
 一もた志事かみといふは
 らでいのはたな進かけたを

書いた。
 んでし
 を筆

- 一、小学校時代の足生に、このころの学校生活を知らせる手紙を書いてみよう。
- 二、親類や知りあいに近況を知らせる手紙を書いてみよう。
- 三、としよりや手紙の書けないうのたぬに代筆をしてあげよう。

と
か
来
九
原

上思(中)一(急)に念(た)く
(中)一(急)に念(た)く
(中)一(急)に念(た)く

九月十日 小林 清

原田 信二 様

生活

紙を

代

人と話をすると、相手に対して礼儀を
 守らなければならぬように、手紙を
 書くときにも、その心づかいが必要である。
 それには、文章に自分の真情があらわれ
 ることはもちろんであるが、文字を書く上から
 も注意しなければならぬことがよく
 あると思う。氣づいたことをあげてみる。

東

十

東京都浅草向区内墨门町三

原田 信二 禄



千葉市志願所五

小林 清

九月十日

ノ

花儀を
紙を
である。
からあれ
上から
く
たより。

五、はかみ、へく

おはきに参考書を借りる依頼のはかみ、
 を書いた。かきられた紙面に要領よく
 まとめることは、なかくむすか、はかめ
 から大体の計画をたてて、注意しながら
 書いていく必要があると思う。

一、他の学校の友だちや父帝、という友
 だちに、はかみ、を書きこませる。

之間万葉集の歌を習へ
 すからすまにたうりたるの
 体みにもと読んみたる
 思ふ事ゆにか適を参考
 書とお教へくだせし也

はかき
 歌よく
 はじめ
 なから
 友

7。

新年おめでとう
ご清年

昭和二十

あけましておめでとうご清年
お元気で初春をお迎えにた
りましたと何れも初七に
いそはとろくの計画と希望
で胸がはばばですおだがに励
みあってこの年をいかに
たしましう

昭和二十五年一月一日

香川縣豊浜向区内大野原村

郵便はがき

池田中子様



香川縣三浦郡小出村

中島久子

十二月三日

六、書き方

書き方に短歌一首を色紙に書いた。佐野
人は自作の俳句をたんざくに書いた。條幅
を書いたものもあった。

- 一、色紙に自作の短歌を書きこみよう。
- 二、たんざくに自作の俳句を書きこみよう。
- 三、書き方は、教室の俳句がききかたを
教室をかたよう。

五、何れから
 かに何れから

新しき年のは

しめに思ふは

定はるは

うけくあるか

正男書

依野
幅

。。
。。
。。

。

七、和漢朗詠集

万葉集や古今集の歌をおたので、その参考
 書を図書館で調べていたら、藤原行成^{（つとむら）}筆と
 伝えられた「和漢朗詠集」の写真版があった。
 文字の形がよくとりの筆づかひもやさしく、か
 にて明かるい感^{（あきら）}を受けた。

みちのの山のしらゆきつむらひ
 さらさらとむくなりあふるなり 是則
 ほのほのとあかしのうらのあまぎらに
 しまがら水ゆくあねをしぞおもふ 丸

み

は

是則
 此乃一
 之筆也

此乃一
 之筆也

此乃一
 之筆也

是則
 此乃一
 之筆也

八、集字しゅうじ聖教せいぎょう序

学校の図書館に書字の存在がいろいろある。その中うちでせいぎょう之の「集字聖教序」の文字に心をひかれた。先生においやす、字を選んで書いていただけ、書か、かたを練習した。

四
暑

四
暑

四時朝夕風雨寒
暑東西古今內外

四時朝夕風雨寒
暑東西古今內外

く
教序
かた

九、贈答のことは

贈答品の包み紙のうめ書きは、いつか
 自分が書くことにせ、まてしなうた。
 いつでも心をこめて書くのだが、文字に
 よって、場合いによつて、しようすへだが
 である。

一、いろいろの贈答用語をけいこしよ。

目
お
目

月謝寸志 法祝

おと玉 中元

目録 記念品

は、い、が
た、た、た。
文字に
た、が
よ、。

感謝状

三年 石井英一殿

昭和二十四年度庭球部長としてわが校の庭球を大^かんにするために力をつくされ、ことに私ども下級生を常に励^も導^かれたことを心から感謝いた^す。

昭和二十四年三月十日

本町中学校庭球部

卒業式が過ぎました。いろいろの部や会で卒業生に対する感謝会や送別会を計画している。感謝状をおく形も記念品をおくつもりです。あつもある。

昭和
が
め
下級
だ

昭和二十四年度庭球部長として

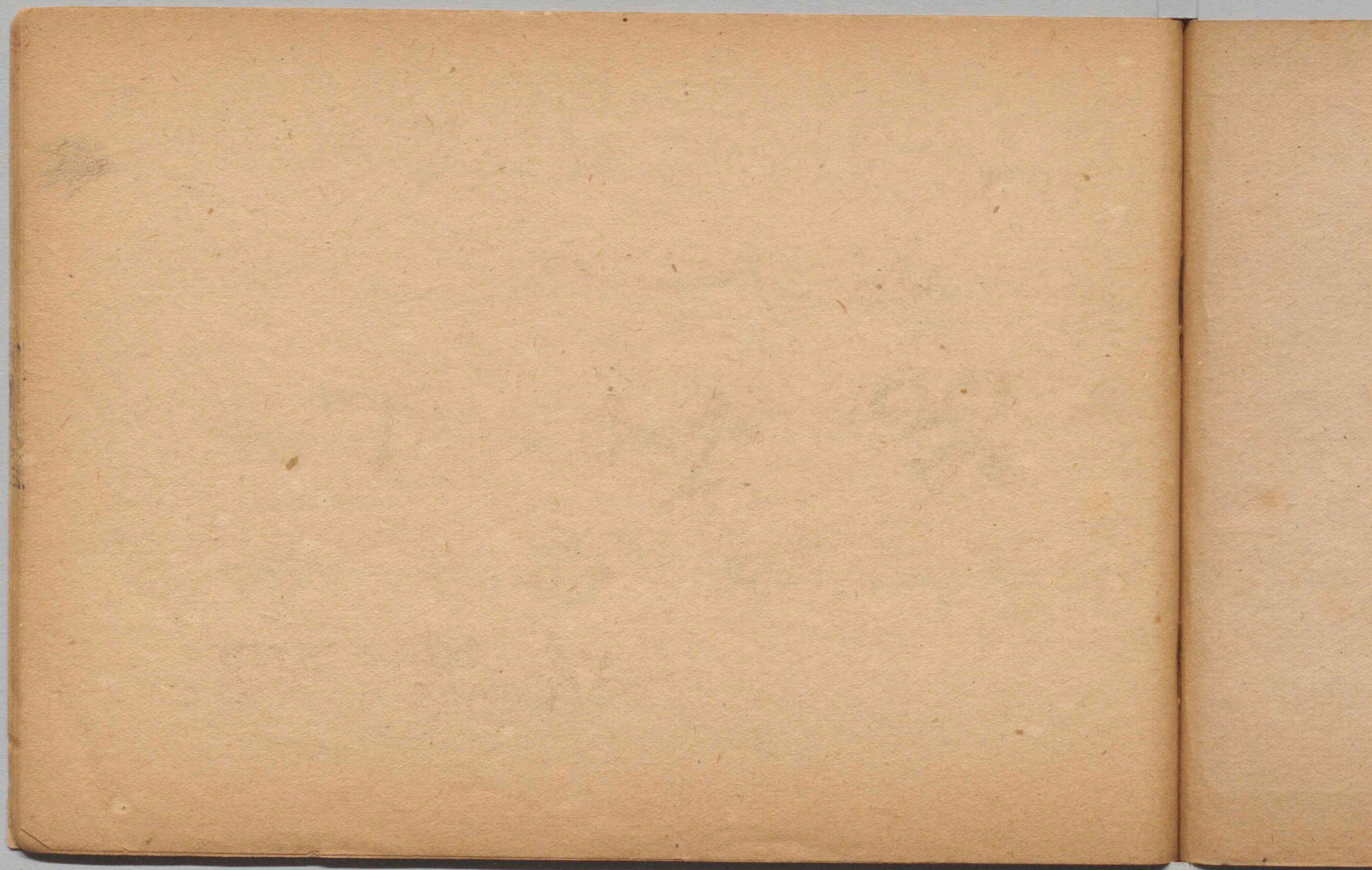
わが校の庭球を大にすすむ

ために力を尽くされたと私ども

下級生に常に励み導かれ

たと心から感謝した事

まて共
部や会
対する
別会を
感謝
記念
する



習 字 二

昭和二十四年四月一日印刷 同日鑄刻印刷

昭和二十四年四月五日發行 同日鑄刻發行

定價七円九十銭

(昭和二十四年四月五日 文部省検査済)

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE Apr. 1, 1949)

著作權所有
著作權發行者

文 部 省

東京都千代田区神田岩本町三番地

發行者刻

中等學校教科書株式會社

代表者 阿部眞之助

東京都文京区久堅町一〇八番地

印刷者

共同印刷株式會社

代表者 大橋芳雄

東京都千代田区神田岩本町三番地

發行所

中等學校教科書株式會社

主
本館不用
K.Y

習字二
¥7.90